



×



ポプラ社

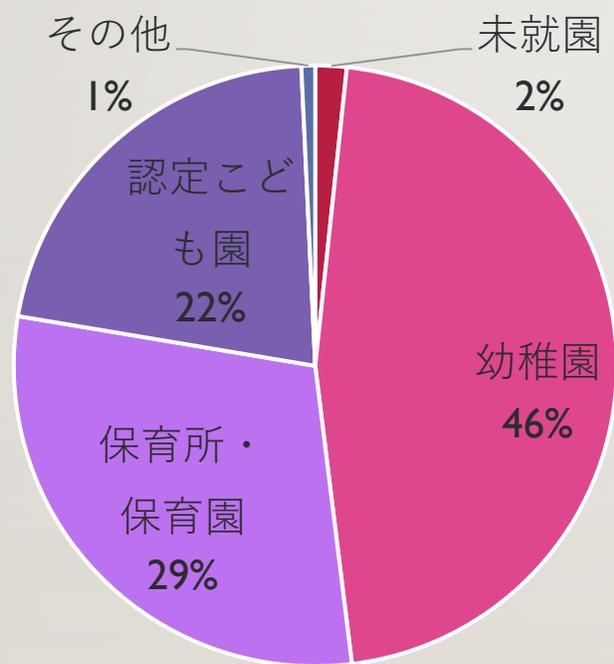
家庭での幼児のデジタルメディア利用および 読書に関する調査

発達保育実践政策学センター 佐藤 賢輔

調査の概要

- 調査テーマ（質問項目）：家庭における子どもの読書環境・読書習慣、子どものデジタルメディア利用状況と利用ルール、子どもの生活リズム、保護者の読書・遊び・デジタルメディアに対する意識、保護者のメンタルヘルス など
- 調査対象：2015年4月～18年3月生まれの未就学児（年少～年長）の母親1596名
- 調査時期：2021年7月中旬
第3回緊急事態宣言下（調査時の宣言地域：東京・沖縄）、「第5波」の始まり、全国の1日あたり新規感染者数は3000人台、東京五輪（7月23日～）の少し前
- 調査方法：Web調査（マクロミル社）

対象児の就園状況とCOVID-19の影響



子どもの就園状況

調査前1ヶ月の通園状況

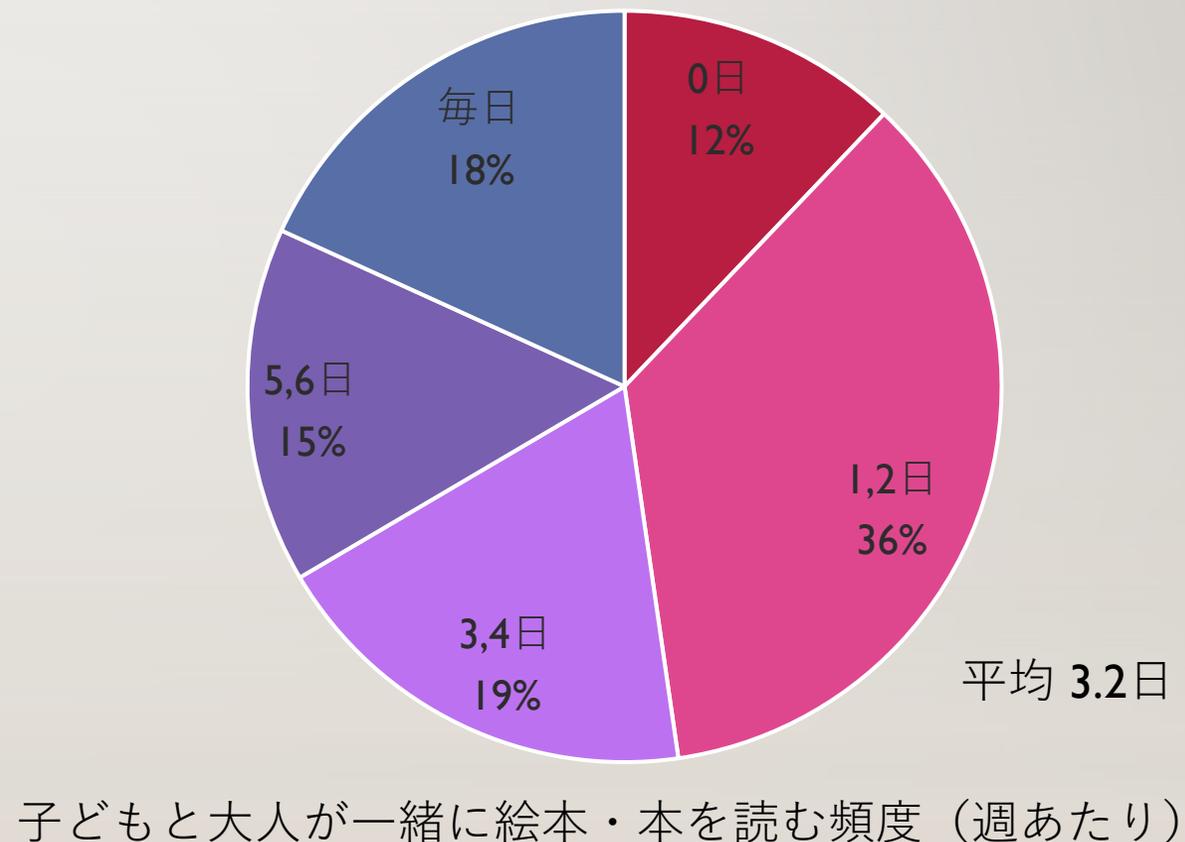
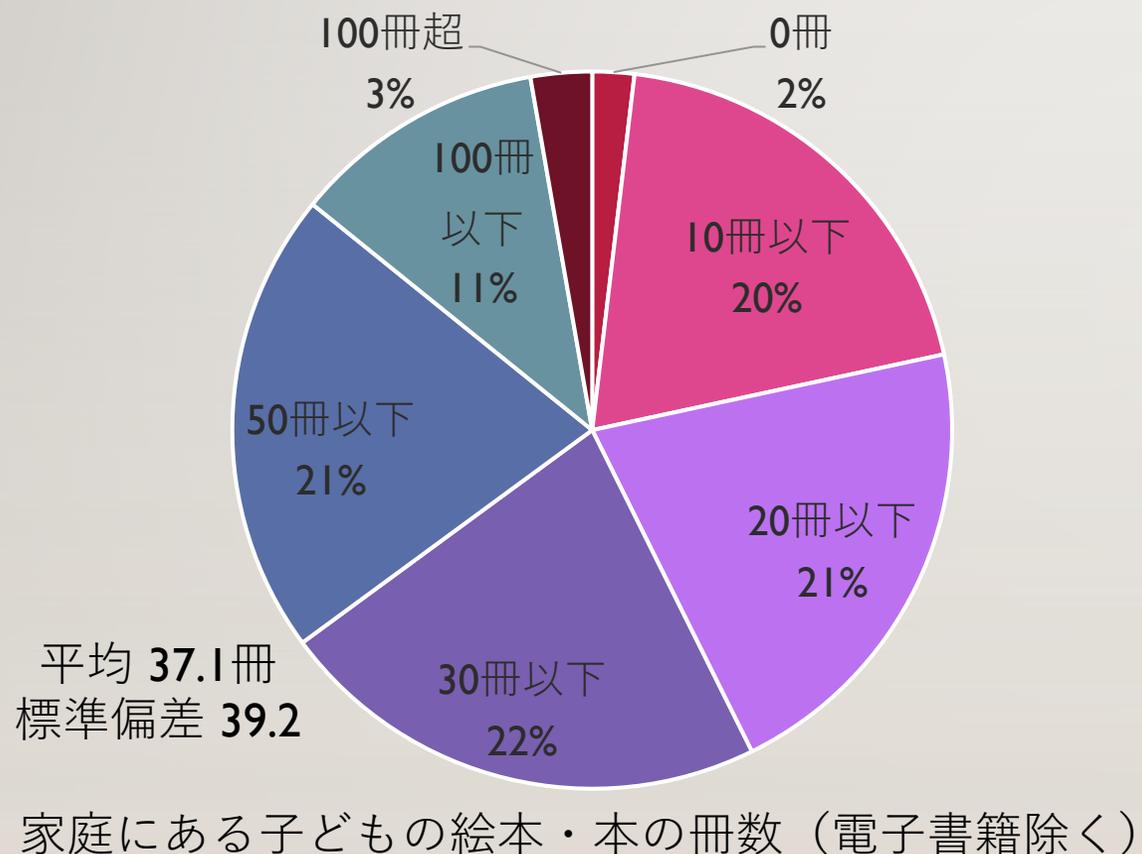
通常通り通園	92.7%
4分の1から半分程度お休み	4.9%
半分～4分の3程度お休み	0.5%
4分の3以上お休み	0.3%

調査実施時、ほとんどの子どもは概ね普段どおりの園生活を送っていた

讀書環境、讀書習慣

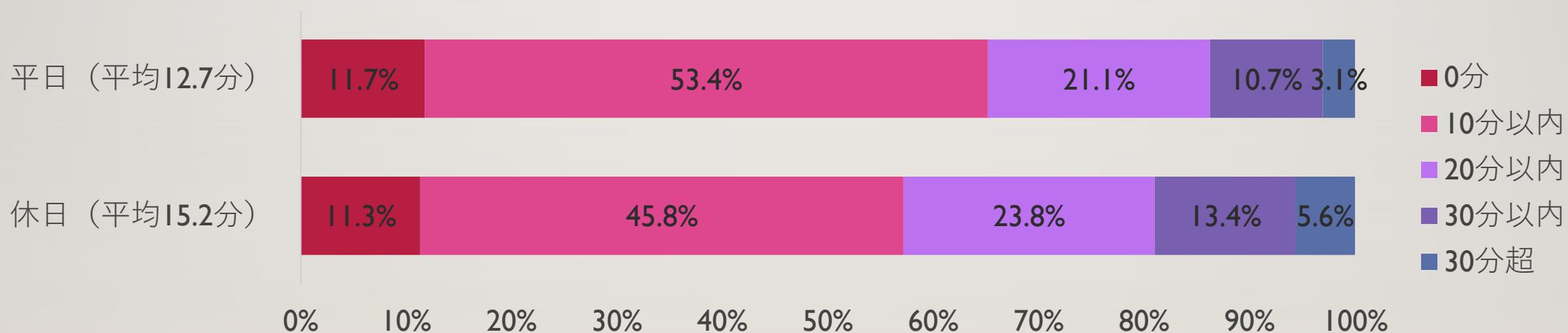


読書環境



子どもの絵本・本の所有数／共同読み（読み聞かせ）頻度のばらつきは大きい

読書習慣



お子様は平均して一日何分程度、絵本や本を読んでいますか？ ※保育施設等で読む時間は除く

1日の読書時間10分以下の子どもが過半数

読書習慣

一人読み < 共同読み

お子様が絵本や本を読む時間のうち、 1人で読んでいる時間の割合（平日） →	0%	16.6%	} 72.0%
	1～50%	55.4%	
	51%～	28.0%	

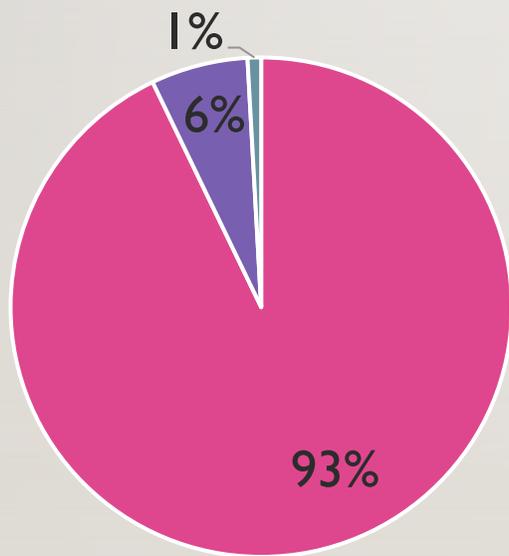
絵本・本の冊数、共同読み頻度、読書時間の相関係数（いずれも1%水準で有意）

	絵本・本冊数	共同読み頻度	平日読書時間	休日読書時間
絵本・本冊数	-			
共同読み頻度	.32	-		
平日読書時間	.25	.35	-	
休日読書時間	.22	.31	.79	-

幼児の読書時間（読書習慣）は、家庭の絵本・本環境や大人のサポートに大きな影響を受ける

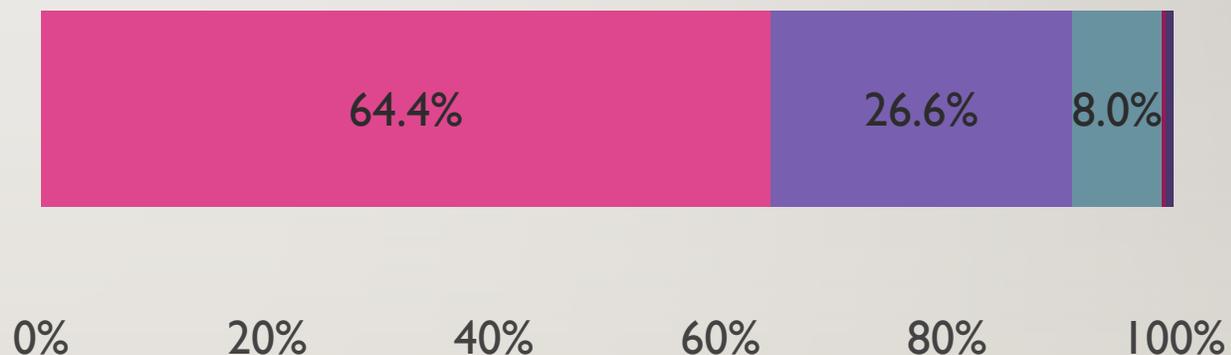
読書のデジタル化

家庭での読書時間のうち、デジタル絵本・本を読む時間の割合



■ 0% ■ 50%以下 ■ 50%超

子どもの読書、紙とデジタルどちらが好ましいか

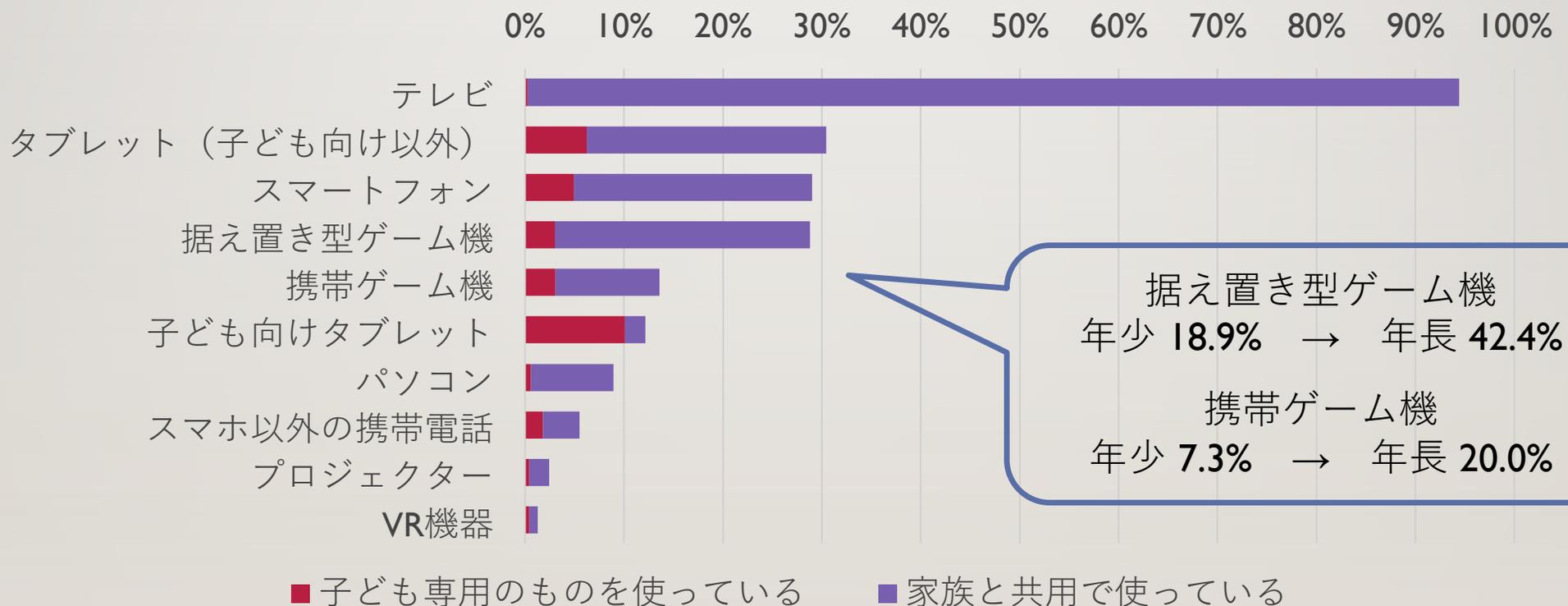


- 紙の絵本や本の方が好ましい
- どちらかといえば紙の絵本や本の方が好ましい
- 紙でも電子書籍でもどちらでもよい
- どちらかといえば電子書籍の方が好ましい
- 電子書籍の方が好ましい

幼児の保護者の「紙選好」は強く、デジタル絵本・本はあまり普及していない

デジタルメディアの利用

各種デジタルデバイスの利用状況

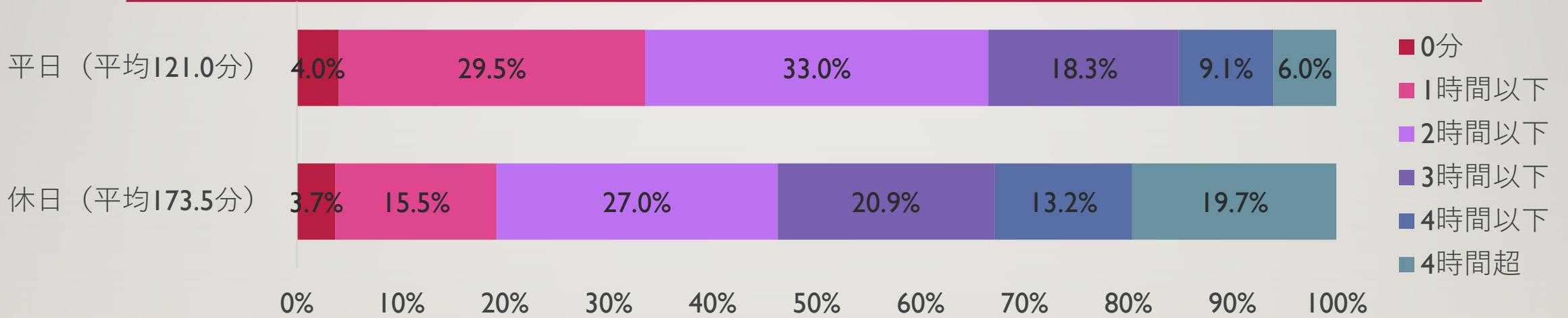


お子様は家庭で各種デジタルデバイスを利用していますか？

9割以上の幼児が日常的にテレビを視聴している／他のデジタルデバイス利用も広まりつつある

スクリーンタイム

アメリカ小児科学会（2016）は、2歳以上の子どもについて「質の高いコンテンツ」に限り「1日1時間以内」の使用を推奨



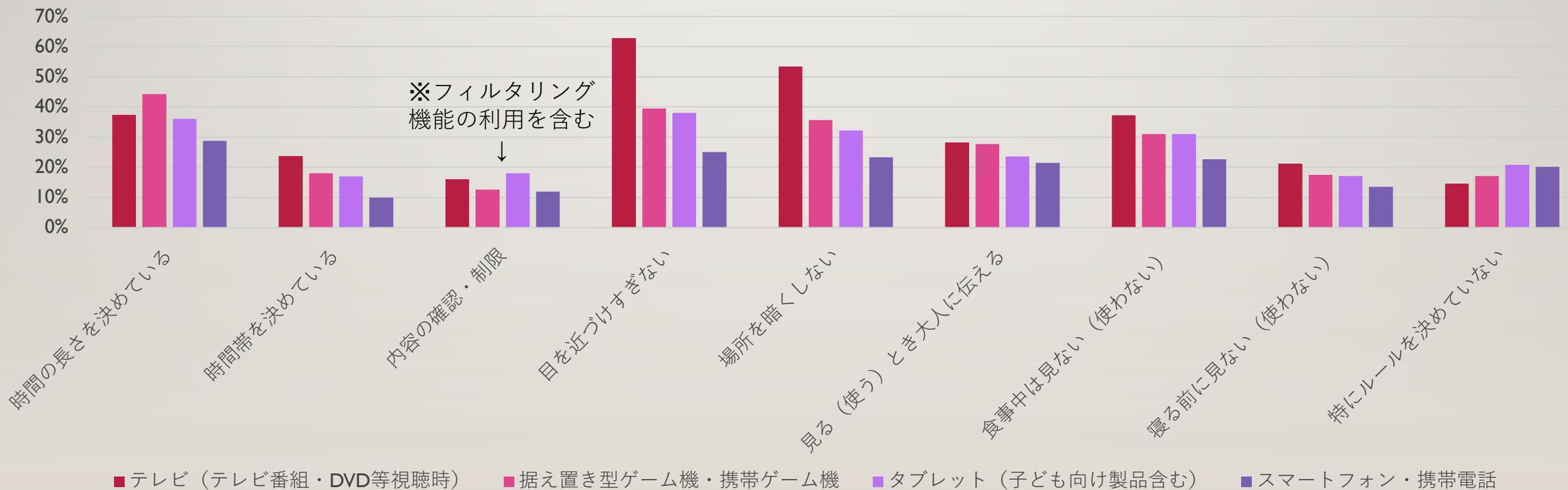
お子様は平均して一日何分程度スクリーンを視聴していますか？（各デバイスの視聴時間を合計）

	テレビの平均視聴時間	スクリーンタイムに占める割合
平日	97.3分	76.0%
休日	136.6分	74.8%

スクリーンタイムは平日でも平均2時間以上／うちテレビを見ている時間は4分3を占める

デジタルメディア利用に関する家庭内ルール

ルールを定めている保護者の割合



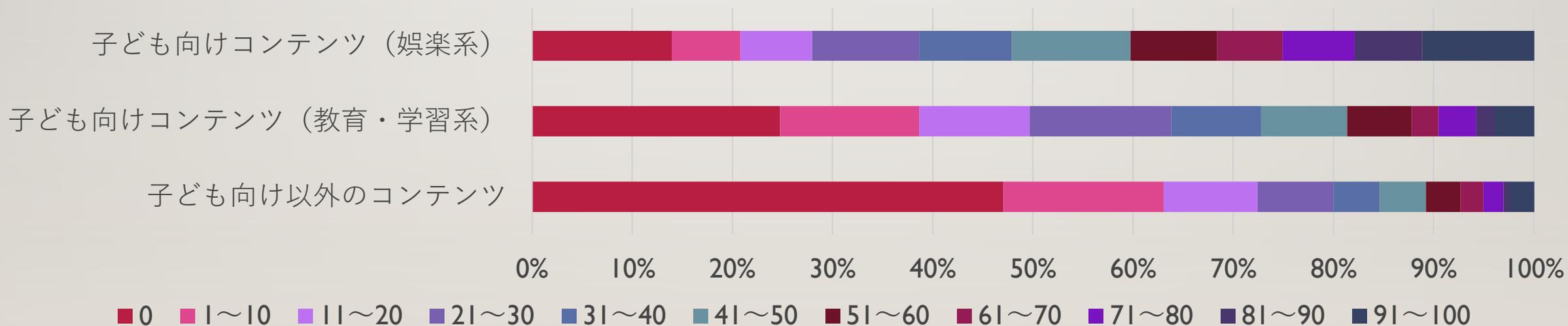
時間制限や目の保護に比べ、コンテンツのチェック (フィルタリング) はあまり行われていない

スクリーン視聴の様態と視聴しているコンテンツ

お子様がスクリーンを見ている時間のうち、
1人で見ている時間の割合（平日） →

50%以下	58.3%
(うち20%以下 → 29.4%)	
50%超	41.7%
(うち80%以上 → 29.5%)	

平均 **49.4%**



スクリーンタイム全体を100とすると、以下の映像・動画を視聴する時間はそれぞれの程度ですか？

視聴の様態（単独 or 共同）は家庭による差が大きい／コンテンツは子ども本位で選ばれる傾向

家庭での子どもの過ごし方

子どもが諸活動に費やしている時間の平均（分） ※保育施設等での活動時間は除く

	平日	休日
読書	12.7	15.2
スクリーンタイム	121.0	173.5
運動や活動的な遊び	38.5	66.3
創作・表現活動	28.5	37.5
スクリーンを利用しない勉強・学習	11.8	13.5

スクリーンタイムや活動的な遊びに費やす時間は休日に大きく増える（読書、学習は増えない）

発達との関連について

※ このパートの資料配布、録画配信はありません

まとめ

調査結果が示唆すること／今後の課題

- 多くの幼児は、家庭で長時間スクリーンを見ながら過ごしている。
- 幼児にとってテレビが最も身近なデジタルデバイスだが、デジタル化の進行により、接触するコンテンツはより多様になりつつある。
- スクリーンタイムの長さは、社会情緒面の発達の問題と強くは関連していない。

今日の環境で「スクリーンタイムを可能な限り短く」には限界がある（根拠も弱い）／視聴するコンテンツの内容や視聴方法について議論を深める必要がある

- 読書は、子どもの社会情緒面、リテラシーの両面の発達に良い影響を与え得る。
- スクリーンを見ている時間と比べると、幼児が家庭で絵本や本に接する時間はわずか。

「子どもの読む機会の保証」には、家庭だけでなく保育・幼児教育施設や図書館の役割、紙の絵本・本だけでなくデジタル書籍の可能性を含む多層的な考え方、アプローチが必要

今後の課題は、発達の時間軸に沿った読書の意義やその変化の解明
(縦断データによる検証や、児童期における絵本から本への移行など)